

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾 4 6 1 - 1
電話 0267-67-2460

2025(令和7)年

仏暦2568年

1月号

(第160号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホッがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



法住 話職

南天竺に比丘あらん

お釈迦さまが亡くなられてから後に、世に出られた本意を、まず最初に広めてくださったのが龍樹菩薩です。その龍樹菩薩が現れることを、お釈迦さまは予言されたといわれるところです。お釈迦さまが南インドの楞伽山で説いたというので、『楞伽經』というお経にその様子がうかがえます。お釈迦さまがマハーマティという大慧菩薩に向けて説かれているところです。

釈尊が楞伽山において、楞伽經を説かれたとき、大慧菩薩、広くは大眾のために、こう予告された。

正信念仏偈に学ぶ
釈迦如来楞伽山
為衆告命南天竺
衆のために告命したまはく、

「我滅度の後、南印度に大徳ある龍樹菩薩が出て、有の見、無の見という二邪見を破つて、我が説く縁起・中道の真意を明かし、自らは歡喜地を証つて阿弥陀仏の安樂浄土に往生するであろう」と。

仏教の教えが正しく保たれている正法の時代は、お釈迦さまの滅後(亡くなられて後)から五百年とされています。龍樹菩薩は、滅後七百年後に生まれられました。その時代になると、仏教は民衆から離れ、様々な部派に分かれて、哲学的に論ずるだけの教えになつてしまいました。そういった仏教を再生しようとしたのが龍樹菩薩でした。

『楞伽經』は龍樹菩薩が滅してから成立したとされています。そして、親鸞さまはこのお経の内容に関して、あまり重視されていなく、ただこの部分を引用されただけとされます。それは、お釈迦さまの浄土の教えを師である法然上人、そしてこの私までつなげてくださった方々の

お一人であるからと龍樹菩薩をまず最初にあげられるのです。

今回の二句は、お釈迦さまが楞伽山で大眾に告げられたというだけです。続きがあり次は龍樹菩薩はどのような教えを説かれたのか本題に入っていきます。今からお伝えしておきますが、ここからは今までと違い少し内容が難しくなります。そこで、同じく七高僧の教えにそつている親鸞さまの著『高僧和讃』も紹介しながら進めていきます。

南天竺に比丘あらん
龍樹菩薩となづくべし
有無の邪見を破すべし
世尊はかねてときたまふ

私も学んだ時期のことを思い返しながらの編集になるかと思われまふ。引き続きよろしくお願い致します。



浄土真宗 新 仏事のイロハ

五、礼儀と作法

― お寺に親しむために ―

「合掌の作法」

礼拝に念珠は欠かせません！

仏さまに礼拝する時に欠かせないのが念珠です。珠数（あるいは数珠）とも言いますが、浄土真宗では「念珠」という言い方が多く用いられています。

ある時、門徒さんから「お念珠の珠の数はいくつあるのですか」と、尋ねられたことがあります。珠の数に何か意味があると思つての問いでしょう。

そこで、私は「元来、珠の数は百八つの煩惱を断ずることを表わす」と聞いていたものですから、とつさに「百八個を基本にして、その約数である五十四、二十七、十八個といった数でしょう」と答え

ました。

しかし、後で自分の持つている念珠を数えると十九個で、どう割つても百八の約数にはなりません。一般的に使われる単念珠では、数に規定があるわけではなく、あまりこだわらない方がよさそうです。手の大きさに合わせて念珠の輪が作られますから、材料となる珠によつてその数も自ずと異なってくるのです。浄土真宗では、念珠を、煩惱を滅する道具として用いるのではなく、また、読経や念仏の回数をかぞえるために使うものでもありません。ただ、阿弥陀さまに合掌礼拝する時の礼儀として用いているのです。

念珠の持ち方と合掌礼拝の作法を述べますと―。

①念珠を持つ時は、常に房を下にたらし、左手で持つようにします。合掌の時は両手につけて、親指で軽く上からおさえます。珠をこすり合わせて音を出したり、手のひらの中でにぎりしめたりはしません。

②合掌は、胸の前で両手を合わせ、のばした指先が上

体から四十五度の方向にくるようにします。そして念仏を称えます。最近では、声に出して念仏を称える方が少なくなつてきたようです。黙念（もくねん）という作法はありません。合掌する時は必ず声に出してお念仏申してください。

③礼拝は、念珠をかけて合掌した姿勢で上体を四十五度前に傾けて、おもむろに元の姿勢に戻します。なお、念珠の房は、習慣的に男性が「ひも房」、女性が「きり房」を用いることが多いようですが、特に決まりはないようです。

また念珠は大切な法具ですから、お経の本（聖典）と同様、畳や床に直接置いたり、投げたりはしないようにしてください。

さらに、法要などに参拝する折には、念珠とともに、門徒式章をかけるように心がけてください。

「浄土真宗（新）仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より

年忌法要表

1 周忌	2024 (令和 6) 年	23 回忌	2003 (平成15) 年
3 回忌	2023 (令和 5) 年	25 回忌	2001 (平成13) 年
7 回忌	2019 (令和 1) 年	27 回忌	1999 (平成11) 年
13 回忌	2013 (平成25) 年	33 回忌	1993 (平成 5) 年
17 回忌	2009 (平成21) 年	50 回忌	1976 (昭和51) 年

編集後記

新年号です。本年もよろしくお願い申し上げます。◆「仏事のイロハ」に、まだ少し続きがありますが略します。挿絵も入りました。◆内容、念珠といえば腕輪念珠もあります、まじないやお守りなどとは考えないでほしいということです。念珠ですから、念仏称えるための法具ということですが。